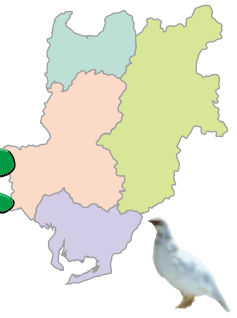




広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



飛騨署の取組みについて説明を行う原署長



2011・国際森林年

森林・林業再生に向けた取り組みを 林政記者に情報発信

(P2に関連記事)

主 な 項 目	○ 林政記者クラブ現場視察	P2~3
	○ 「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催	P3~4
	○ 平成22年度「中部森林管理局決算概要」を公表	P4~5
	○ 風景紀行	P10

◆幹部人事異動
新次長(名古屋事務所長)



田中 謙司

十月一日付で次長(名古屋事務所長)として勤務することとなりました田中でございます。歴史と伝統ある中部森林管理局の一員として勤務できることを光栄に思っています。管内の勤務は旧長野局時代に局計画課、木曽福島署、南木曽署ですが、旧名古屋局管内の勤務は初めてであり、管内の状況を早急に把握し職員の方々と業務運営に取り組んでいく考えです。

現在、長野庁では、森林・林業再生プラン実現に向けて数々の施策を進めています。その大きな柱の一つとして国有林の一般会計化に向けた検討が行われていますが、国有林の使命である森林の公益的機能の維持増進、林産物の安定的な供給、地域振興の大きな柱は変わらぬものと考えています。これまで以上に地域住民や森林所有者等の林業関係者との関係が深くなる中で、再生プランを実現しつつ国有林の使命を果たすためには、地域

住民の声をよく聞きそれを業務に十分に反映し、地域に信頼され感謝される国有林として進まなければならないと考えています。

再生プランについては、必要な予算付けがされ、森林法等の制度も改正され、いよいよ現地で計画をたて実行ということになりました。これまでも国有林では民有林に先駆けて低コストで壊れにくい路網の作設、間伐材のシステム販売等、低コストで効率的な生産・販売システムの導入を進めてきました。これからはこれらの業務に加え、民有林も含めた地域の森林において、地況、林況、木材価格等を総合勘案しつつ、伐採箇所の選定、主伐か間伐かの選択、一回目の搬出だけでなく将来を見据えた路網の作設、傾斜や地質等の条件によっては架線集材の検討等々、その森林の条件にマッチしたグラウンドデザインを描ける技術者の養成が求められています。その技術者の先頭に立つのが、永年、国有林を管理経営してきた現場での技術を有する職員の皆さんであると確信しています。地域に国有林があつて良かった、職員がいて助かったとの評価が得られるよう共に頑張りましょう。

私も次長として局長を補佐しつつ、現地で森林のあり方を皆さんと議論し、十年後の木材自給率五十%の実現に向けて取り組んでいく考えでありますので、よろしくお願ひします。

◆田中次長の略歴

- 生年月日 昭和29年7月13日
- 本 籍 熊本県
- 略 歴 熊本県立芦北農林高等学校卒 (S48・3)
- 昭62・3 養成研修専攻科卒業
- 昭48・4 大阪営林局日原営林署採用後、福井署・日原署・山崎署、長野局計画課・福島署、長野庁業務第一課・林政課を経て
- 平9・8 長野局南木曽営林署長
- 〳11・3 中部局木曽森林管理署南木曽支署長
- 〳11・8 長野庁森林組合課就労改善専門官
- 〳13・1 長野庁職員厚生課企画官
- 〳14・4 長野庁管理課課長補佐(人事研修班担当)
- 〳16・4 近畿中国局島根森林管理署長
- 〳18・8 九州局総務部長
- 〳20・4 長野庁管理課管理官
- 〳21・4 長野庁林政課管理官
- 〳23・10 中部局次長(名古屋事務所長)

森林・林業再生プランの現場を視察

名古屋、長野両林政記者クラブ

「名古屋事務所」九月十五日～十六日の両日、名古屋、長野両林政記者クラブの

現場視察を実施しました。今年、飛騨管内の森林・林業再生プランに基づいた取組の一つ「共同施業団地」の設定箇所と、建設業と森林組合が共同で計画的な森林整備にと生産体制の確立を目指す新しい取組を行っている現場を中心に視察しました。

昨年九月に中部森林管理局長と岐阜県知事との「岐阜県における健全で豊かな森林づくりの推進に関する覚書」締結に基づき協定第一号の施業団地(高山市荘川町)の民有林、国有林それぞれの現場で、飛騨署、岐阜県、飛騨高山森林組合から中間土場の活用による団地化のメリットや将来の林業専用道・森林作業路の計画、計画的な間伐実施等の説明に加え、団地化の協定締結に向けご尽力をいただいた前一惣造林組合長の三島氏から地元の方に対する思いを語っていただきました。

建設業と森林組合で組織された「たか



共同施業団地を視察する記者の皆さん



飛騨署において作設中の林業専用道

やま林業・建設業協同組合」の現場は、岐阜県の「健全な森林づくりプロジェクト」に認定され、林業事業者から森林所有者へ間伐などの施業計画や路網計画を提案し計画的に事業を展開しており、同組合の専務理事から、「林業の経験は浅いものの、欧州での路網研修や間伐の実施など日々技術の研鑽に努めている」と意欲的な説明を受けました。

今回の視察では、林業の現場だけではなく、木材を利用した施設、工場等も視察しました。

高山市立中山中学校校舎と体育館は地元岐阜県産材を主体に作られており、モダンなデザインと木のぬくもりを肌で感じることができました。

近年、飛騨地方のスギを使った家具の製作を手がけている飛騨産業(株)では、傷を付きにくくするために、スギを圧縮する高い技術とその製品を見学しました。

最後に、航空機関連の部品を製作している榎本ビーエー(株)では、オガコやカンナクズなどの二次粉末利用に限定した小型のベルト製造機を見学しました。

各現場では、記者から質問意見が出されたほか、「現場を見ることができて大変良かった。是非続けてほしい。」などの意見が寄せられました。

今回の視察では、森林・林業の再生に向けた人材育成の森林管理署の具体的な支援を念頭に飛騨署のフィールドを紹介しました。今後各署においても森林・林業の再生に向けた具体的な取り組みがスタートすることとなります。(飛騨署のプレゼン資料は別冊)

「森林ボランティア・NPO 連携推進会議」の開催

「指導普及課・木曽森林環境保全ふれあいセンター」

九月三十日(金)・十月一日(土)の二日間、長野県松本市の浅間温泉及びアルプス公園において、国際森林年記念行事の一環として「森林ボランティア・NPO 連携推進会議」及び関連イベント「森・ふれあいフェスタ」(連携推進会議実行委員会主催)を開催し、中部森林管理局管内四県から森林ボランティア団体・NPO 法人など十六団体、四十八名と局署の職員合わせて総勢六十七名が参



活動や事例報告を行う参加者

加しました。

この会議は、局(指導普及課・ふれあいセンター)が事務局となり松本市で開催することで、三月に森林ボランティア団体等を代表する三つの団体と中信森林管理署からなる実行委員会を設置して、三回の実行委員会を実施内容をはじめ運営方法等全てを団体が主体となって協議・決定し開催しました。

目的は、活動、事例報告と意見交換会、市民参加型のワークショップを実施するイベントを開催・運営することを通じて、ボランティア団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民に対し、国民参加の森づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPR することです。

一日目は、浅間温泉の旅館会議室において会議を行いました。開会式では、裏木曽古事の森育成協議会の古田事務局長から実行委員会代表の挨拶と局から井上指導普及課長の挨拶があり、会議の後援をいただいた松本市から草田耕地林務課長が来賓として出席され、歓迎のご挨拶を賜りました。

引き続き会議内容に入り、はじめに、四団体から自由テーマによる活動、事例報告の発表がありました。名古屋市のNPO 法人名古屋シティ・フォレスト倶楽部の長谷川保夫理事長からは活動内容の紹介とともに、同じ地域で長く活動を続けるためには活動地域の人々に理解してもらうことが大切、「地域と歩むボランティア」を主張されました。

続いて、ワールドカフェ方式の意見交換会に移り、意見交換会は、四団体からの報告を参考に、「更なる連携(地域・企業・ボランティア団体・NPO な



ワールドカフェ方式による意見交換



ミニチュアハウスを組み立てる子供たち



かんなくずプールを体験する子供たち

ど)」、「資金・指導者の確保」及び「今後の連携推進会議の持ち方」の三つをテーマに行いました。

まず、アイスブレイク(ミニゲーム)で十テーブルに班分けを行い、ワールド

カフェ第一ラウンドの意見交換を開始し、自由に意見を出し合い探求して、気づいたことや発見したことなどをテーブルの模造紙に書き込んでいきました。次に、第二ラウンドでは各テーブルにホスト役を残しメンバーを入れ替え意見交換を再開、新しいアイデアやつながり等を模造紙に追加書き込みをし、最終の第三ラウンドでは始めの班テーブルに戻り、他のテーブルで得た発見や、アイデアを持ち帰って話し合いを深め、更に書き込んで班の意見等のまとめをしました。その後、各班の代表から発表があり、参加者全員で内容の共有を図り、最後に一人ひとりが今日、一番大切だと思ったことをポストイットに記入して振り返り、意見交換会を終了しました。

記載内容を見ますと、「ボランティアは無料ではない、活動にはお金、魅力、夢も大事」、「企業、他団体、地域、山主との連携と交流も必要」、「後継者問題に苦慮」、「会議は、他団体の現場で研修会、地域を含めた交流」、「会議は、ボランティア団体だけでなく、教育関係者、企業も交えて開催」などなど、貴重な意見やアイデアがありました。

二日目は、アルプス公園家族広場を会場に、一般市民を対象として、参加団体が得意とするワークショップを準備し、参加者が協働してスタッフとなり運営するイベント「森・ふれあいフェスタ」自然と遊ぼう「森に学ぼう」を開催し



参加者(団体)の皆さん

て、外部との交流を深めました。

ワークショップは「竹とんぼ作り」、「ウツデイ福笑い」、「森の??探し」、「ネイチャートレイル」(以上、NPO法人やまぼうし自然学校)、「わら細工」、「ブリッジ積木」(裏木曾古事の森育成協議会)、「竹笛作り」、「チェンソーアートの実演」(NPO法人名古屋シテイ・フォレスト倶楽部)、「ドパースアート」(国土防災技術株式会社)、及び「丸太切りと小木工」、「ミニチュアハウス組立」、「かんなくずプール」(中部森林管理局)の十二ブースを設定しました。

好天に恵まれ、約三百名の市民、親子・家族づれの方々が来場し、延べ六百三十名の方がワークショップを体験されました。体験している子供たちやご

家族の皆さんは、満面な笑みを浮かべ、随所で笑い声が飛び交い、会場は和やかな雰囲気でした。一方、スタッフも指導者として安全面には細心の注意を払うとともに、一般市民と会話をしながら終始笑顔で一緒に楽しんでいる雰囲気伝わってくる「森・ふれあいフェスタ」でした。

二日間を通じて、会議の目的が達成でき、意義ある「森林ボランティア・NPO連携推進会議」となりました。終わりに、参加していただいた森林ボランティア等各団体の皆様方には感謝を申し上げます。

平成二十二年 度

「中部森林管理局決算概要」を公表

【経理課】去る九月二十日(火)、平成二十二年中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成二十二年の決算は、適切な収支管理を行いつつ、国有林野の公益的機能の維持増進などに積極的に取り組んだ結果、収支では七億三千万円の収入超過となりました。

また、損益計算上では、二十八億九千万円の損失となりました。

発生収支 収入のうち、事業収入の大宗を占める林産物等収入は、木材の販売単価が上昇したこと等により、前年度より三億一千万円増の三十三億円となり、

自己収入全体では前年度より二億五千万円増の四十二億七千万円となりました。

一方、一般会計からの受入は、治山事業の事業量が減少したこと等から、前年度より八十五億五千万円減の百九十一億九千万円となりました。

また、借入金金は、既存の借入金のうち平成二十二年度に償還期限が到来したものの借換借入金金であり、七億九千万円増の百二十六億二千万円となりました。

支出については、職員数の適正化に努めたが、前年度と比べて退職者の増により、給与経費等は前年度より三億九千万円増の六十八億七千万円となりました。

森林環境保全整備事業費については、当年度の森林整備等の事業費の減少等により、前年度より十八億一千万円減の六十三億二千万円となりました。

治山事業費については、事業量が減少したこと等から、前年度より五十七億三千万円減の六十二億六千万円となりました。

借入金に係る償還金・利子は、前年度より六億円増の百三十四億七千万円となりました。

以上の結果、三百六十七億三千万円の収入に対し、支出は三百六十億円で、七億三千万円の収入超過となりました。

損益計算 減価償却費・資産除却損等の減少により、損益計算上の損失は前年度より六億四千万円減少して二十八億九千万円となりました。

**第五十一回治山研究発表会で
優秀賞を受賞**

【南信署】平成二十三年九月二十七日（二十八日）に、国立オリンピック記念青少年総合センターで、第五十一回治山研究発表会及び第四十九回治山シンポジウムが開催されました。

第一日目は開会式に引き続き、東北大学の首藤信夫教授より「津波対策の現状と今後の展開」と題した特別講演を受けました。過去に発生した大津波を検証する中で津波のメカニズムを検証し、どのような対策が必要なのかを問題提起する内容であり、今後の治山対策に大いに参考となりました。

研究発表会は四つのセクションに分かれ、合計四十二課題が全国の国・都道府県治山担当者等により発表されました。中部局においては、局技術専門委員会での審議の結果、当署の「流木等を利用し



優秀賞を受賞（左から竹内署長、澤口治山課長、原治山第三係長）

た吹付工の一考察」が推薦され、第二セクション「斜面・溪流対策の取組」の中で発表し優秀賞を受賞することができました。

審査委員長からの講評では「単純明解でありコストの縮減と産廃の減量化が図られる内容になっていること」について高い評価を受けました。

第二日目は「海岸林の再生に向けて」をテーマにした治山シンポジウムが開かれ、津波による海岸防災林の被害や評価・効果、そして再生について三名の方から話題提供され討論が行われました。大学の教授等をはじめ、東日本大震災で被災された県（岩手、宮城、福島）の担当者もパネラーとして参加され、被災の状況報告も有り、生々しい状況が思い浮かぶ中での討議であったと感じました。今回発表するに当たりましては、皆様からご指導ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

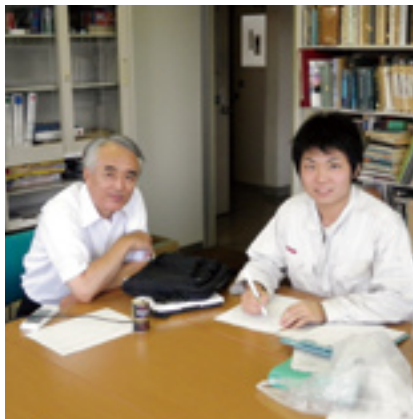


発表の様子

各地からのたより

インターンシップの受け入れ

【南信署】南信森林管理署では昨年続き「信州大学農学部との人材育成協定に係る取り組み」等に基づき、インターンシップの受け入れを八月八（十二日）と二十二（二十六日）の二回に分けて実施しました。



竹内署長と信州大学の村井さん



同署長と東京農大の栗原さん（左）と久保内さん（右）



治山事業について説明する
治山技術専門官



製品生産事業について説明する販売係長

東京農業大学より二名、信州大学より一名で実施し、経営、土木、販売、治山等それぞれの業務を体験してもらいました。
体験を通して研修生からは、「森林管理署での具体的な業務は知らなかったが、国有林の管理、森林林業に関する指導、国土保全、森林教育等幅広い分野で業務を展開していることが解った」また「シカ柵、ワナの設置などシカ被害の現

状と対策などを教わり勉強になった」との感想が聞かれました。

研修最終日の挨拶では「今までの体験の中で一番の経験ができました」とのうれしい言葉も聞かれ、この受け入れが将来に役立っていただければ幸いです。

登山者に安全な遊歩道を整備

【飛騨署】九月十日(土)、名古屋造林素材生産事業協会飛騨支部は、平成二十三年度ボランティア事業の一貫として、飛騨市河合町天生(あもう)国有林において、天生湿原遊歩道周辺危険木処理作業を行いました。

ボランティア活動を行った天生国有林は、岐阜県北部に位置し、世界文化遺産・白川郷で有名な大野郡白川村と飛騨市河合町の境にあります。平成十年に天生県立自然公園に指定され、春から初秋まで花が絶えることのない高層湿原やブナの原生林が広がり、植物観察やその頂にある初糠山(もみぬかやま)登山などで年間八千六百人もの登山者が入山しています。今後入山者は増加傾向にあり、遊歩道周辺には老齢などによる枯木が見られ、風雨等の後には倒木、落枝などが見受けられるようになってきていました。

同協会はこうした中、飛騨エリアの森林整備、林産業を行う協会として、枯損



危険木処理作業を行うボランティアの皆さん



木の処理をボランティアで行うよう計画し、今回で二回目となりました。
当日は爽やかな秋晴れの中、会員や職員で心地よい汗をかきながら、遊歩道周辺の危険な枯木の処理作業を行いました。

会員の皆さんは、日頃鍛えた巧みなチェーンソーによる伐倒技術で枯木を処理し、怪我無く安全な登山道整備を終えることができました。
晩秋をむかえる天生は、ブナなどの紅葉目当ての登山者を迎える準備が整いました。

十年目を迎えた段戸国有林

「漁民の森林づくり活動」

【愛知所】九月二十八日、愛知所管内の段戸国有林においてNPO法人や蒲郡市、愛知県と協働し「段戸国有林「漁民の森林(もり)づくり活動」を実施しました。

本活動は、豊かな水産資源をはぐくむためには上流の森林整備が大切だと、平成十四年に三河湾の漁業関係者が三河湾につながる豊川の源流にある、ふれあいの森内に広葉樹を植林したことが始まりで、今回で十回目となります。

翌年からは愛知県立三谷水産高等学校



平成14年の植林作業の様子



成長した森で除伐作業を行う漁業関係者

の生徒が加わるなど活動の輪を広げ、現在ではふれあいの森の他に広葉樹転換林の除伐作業も行っています。

秋晴れとなった当日、蒲郡市漁協青年部連絡協議会メンバー十六名及び愛知県立三谷水産高等学校の一年生三十九名が参加し、漁業関係者はふれあいの森を、高校生は広葉樹転換林の除伐に汗を流しました。

植えたときは数十センチだった苗木も、現在では自分たちの背丈を遥かに超え、漁業関係者から「歳月の流れを感じるね。」といった声が寄せられました。

また、お昼には十周年を記念して漁業関係者が「海の幸振る舞い」としてニギス鍋を参加者に振る舞いました。

その後高校生は国際森林年イベントとして、裏谷の天然林を歩き、普段学んでいる海とは違う森の働きや天然林の雰囲気堪能しました。



裏谷天然林を歩く高校生たち



参加者全員で記念撮影

として、毎年NPO法人・団体・教育機関等と連携して森林教室をはじめとするイベントに取り組んでいます。

中でも、段戸国有林で行う自然観察案内は、豊川市内の全小学校五年生を対象としてNPO法人「穂の国森づくりの会」や教育委員会と協働し、実施しています。

今年度も五月中旬から九月中旬までの四ヶ月間、ほぼ毎週児童を森に案内し、二十五校、約千七百五十名の児童と一緒に森を歩き森の働きを学びました。

案内開始から十一年目が経過し、野外活動の一部として定着したこの案内には、兄弟等が以前に参加したことがあり、「話を聞いて、自然観察をとっても楽しみにしてきましたよ。」と話してくれる児童が何人もいました。

各児童にとっては一度しか体験できない野外活動での自然観察なので、森の中の楽しい思い出をいっぱい持ち帰ってもらえるよう、案内人がみんなで工夫をこらし、楽しくわかりやすい案内になるよう努めました。

また、野外活動での事故を防ぐため、案内の開始前に参加する全ての学校の教職員と案内コースを歩いて危険予知を行うなど、安全管理にもさらに力を入れました。

今後、連携団体と反省会を行うなどして、来年度以降の案内がより良くなるように努めていきたいと考えています。

裏谷原生林自然観察案内終わる

「愛知所」当所では森林環境教育の一環

閉会式で、三谷漁協組合長小林氏が「森林を整備したからといって、すぐに海が豊かになるものではない。今後も継続して活動していきたい。」と感想があり、今後の活動に意欲を見せられました。今後各団体との交流・連携を大切にしながら、ともに「水産資源をはぐくむ森づくり」を続けていきたいと思えます。



森の働きなどを分かりやすく説明



自然観察に訪れた児童たち

木曾駒ヶ岳の植生復元作業の実施について

「木曾森林環境保全ふれあいセンター」

九月十五日は好天に恵まれ、富士山も遠く望める絶好の快晴の中、植生復元対策検討会メンバーをはじめボランティア、当センター職員・局署の職員を含め総勢三十六名で本事業を実施しました。

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺では、過去の登山者の入り込み増加が誘因とも考えられる踏み荒らし等によって、高山植物の荒廃が進行しており、加えて大量の降雨、降雪による砂礫の移動や強風が植生の荒廃に拍車をかけています。

このような植生の衰退を食い止めるため、飛砂や砂礫の流入・流出を防止・登山者に「踏み入ってはいけない」という視覚的効果も期待しつつ植生マットを敷設する植生復元作業を啓発もかねて実施しています。

今年度のマット敷設面積は新規敷設と補修を合わせて165平方メートルで、天狗荘北西周辺と駒ヶ岳八合目（伊那前岳方面）付近で行いました。

日本最高所駅の千畳敷ロープウェイ駅で敷設用マットとピンなどの資材をみんなで分担して背負い、急な八丁坂を汗だくになりながら登り二手に分かれて敷設しました。

本作業計画は十七年度を皮切りにこれまで一、二四五平方メートルが実行されてき

ました。

高山帯での事業であり厳しい生育環境



重い資材等を背負う参加者



植生マットを敷設

下であることから結果が出るまでに時間がかかり、現地の一進一退の状況に一喜一憂しています。植生復元委託調査報告によると現在までの取り組みにより砂礫の流入・流出が止まることによる効果と思われる兆しも僅かずつではあります。が確実に出てきていると報告されています。



植生復元作業に関わった皆さん

管内囲碁大会を開催

【OB】第四十三回管内囲碁大会が十月十五日森林管理局別館で開催されました。大会は職員一名、OB十七名が参加し、酒井国有林野管理課長の挨拶の後、



熱戦を繰り広げる参加者

盤上に熱戦を繰り広げました。成績は次のとおりです。

Aブロック

- 優勝 清水 長久 四段 (OB)
- 準優勝 小林 秀夫 四段 (〃)
- 第三位 美斉津 桂 七段 (〃)

Bブロック

- 優勝 酒井 省三 一級 (国管課)
- 準優勝 黒沢 嘉武 二段 (OB)
- 第三位 原 信夫 二段 (〃)

人のうごき

林野庁人事(抄)

十月一日付

▽林野庁国有林野部付(局次長(名古屋事務所長))
竹井 章

▽中部森林管理局次長(名古屋事務所長)(林野庁林政部林政課管理官兼林政部林政課課長補佐(人事総括))
田中 謙司

▽中部森林管理局出向(総務部付へ)
(局総務部総務課長)
洞 和雄

▽中部森林管理局総務部総務課長(局総務部職員厚生課長)
宮口 裕之

▽中部森林管理局局総務部職員厚生課長(東信署次長)
上條 浩明

▽中部森林管理局出向(森林整備部付へ)
(局森林整備部森林整備課長)
飯村 清夫

▽中部森林管理局森林整備部森林整備課長(局森林整備部販売課長)
小林 辰男

▽中部森林管理局森林整備部販売課長(局森林整備部企画官)
傳村 充善

中部森林管理局人事

十月一日付

▽林野庁出向(局森林整備部企画官へ)
(局計画部付)
駒瀬 勉

▽林野庁出向(東信森林管理署次長へ)
(局企画調整室室長補佐)
大平 重利

▽企画調整室室長補佐(木曾署南木曾支署総務課長)
宮澤 昌弘

▽総務部総務課付(総務部総務課研修主任官)
花井 永二郎

▽総務部総務課研修主任官(計画部国有林野管理課鑑定官)
郷原 辰実

▽木曾森林管理署総務課長(総務部職員厚生課給与係長)
寺沢 正樹

▽木曾森林管理署南木曾支署総務課長(木曾署総務課長)
青木 求

▽総務部職員厚生課給与係長(総務部職員厚生課安全衛生係長)
遠山 京一

▽総務部職員厚生課安全衛生係長(計画部国有林野管理課企画係長)
長屋 憲明

▽計画部国有林野管理課企画係長(計画部国有林野管理課付)
白木 淑子

▽災害派遣東北森林管理局宮城北部森林管理署駐在(木曾署南木曾支署治山課治山第一係長)
宮下 崇

▽中信森林管理署治山課姫川治山事業所(中信署鹿島森林事務所)
山崎 聡大



シリーズ 現場最前線

笑顔の絶えない明るい雰囲気 東濃森林管理署

川上・神坂森林事務所班

川上神坂班は、川上森林事務所二名・神坂森林事務所二名の計四名で合同班として事業を行っています。班では、川上森林事務所が管轄する川上国有林(約一、二〇〇ha)と今年度流域整理により新たに加わった賤国国有林(約二〇〇ha)及び、神坂森林事務所が管轄する湯舟沢国有林(約二、五〇〇ha)を担当しています。

川上国有林には奥三界山や三界山、湯舟沢国有林には三百六十度の大パノラマが楽しめる富士見台や森の巨人たち百選



川上・神坂合同班の皆さん

の「神坂大松」、恵那山登山口等があり、国有林内に観光客の車両や登山者等の通行が多いため、林道走行の際には防衛運転に徹するとともに、危険箇所は無いかと常に目を光らせています。

作業内容は各種調査業務や森林保全管理、林道維持修繕、分収育林の明認作業、除伐2類や枝打ち等多岐に亘っています。

班長を中心に二つの森林事務所の業務を上手く調整し、日々のミーティングにおいては業務内容や作業地の条件等により、安全で効率的な作業方法等について皆で打合せ確認しています。

今後も、笑顔の絶えない明るい雰囲気
で豊かな森づくりに取り組み、平成十年から続く無災害を継続していきたいと思っています。

行事・協議会の予定

◎国有林野等所在市町村長有志連絡協議会

11月7日 松本市

◎署長等会議

11月11日 長野市

◎名古屋シティ・フォレスト事業

11月12日 愛知所管内

◎国際森林年記念講演会

11月22日 長野市

◎講演会「列状間伐」

11月29日 松本市



小里城山城登り口

岐阜県瑞浪市の南部に位置する稲津町内には中世からの近世初頭にかけて当地を治めた領主「小里氏」の居城とされる城跡が三ヶ所あり、小里古城跡、小里新城跡、小里城山城跡と呼ばれています。

戦国時代の山城・小里城跡

ふう けい き こう
風景紀行
小里城跡
 78
 東濃森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

この山城の築城時期については明らかでないようですが、小里光忠が当地を所領した天文元年（一五三二年）頃、あるいは織田信長と武田氏との攻防の最中であつた天正二年（一五七四年）と考えられ、元和九年（一六二三年）に幕府からの命により小里氏が断家となつたことより廃城となつたとのこととす。

曲輪は、城山の北側山麓（御殿場跡）



登山道（V字に切れ込んでいる）

その中でも最も規模が大きく、また平坦面（曲輪）なども良好な状態で残っている小里城山城の本丸跡（岐阜県指定史跡）は小里国有林（二三二杉）内にあり、この場所はレクリエーションの森（小里市民公園ほか〇・四一杉）に指定されています。

と山頂（本丸跡）に確認されており、「御殿場跡」は大手門と呼ばれる門跡（石垣）が残っています。また「本丸跡」は、石垣のほか天守台あるいは升形と呼ばれる不等辺六角形を呈する石積みがあります。

辺りには築城用の石切跡のついた石や割石も散在しています。

また、この天守台は、織田信長が安土城天守築城前に自ら指示して築かせたという説もあり、六角形の石垣から想像して、もし完成していれば安土城のような風変わりな天守ができていたかもしれません。

最近の歴史ブームにより、小里城跡にも多くの観光客が訪れています。

なお、山城から谷を挟んだ西側には、コウヤマキの分布下限近くに位置する林分約一九センチの小里コウヤマキ植物群落保護林として指定されている場所もあります。

◆アクセス

（所在地）岐阜県瑞浪市稲津町小里

○車をご利用の場合

中央自動車道瑞浪IC下車県道二〇号線を南へ約三〇分。

○公共交通機関をご利用の場合

JR中央本線瑞浪駅から東鉄バス明智線「明智駅」行きで「山の田」バス停で下車。小里城址のある山の麓までは約二キロメートル。



天守台から町並みの一望



小里城山天守台の石垣（不等辺六角形を呈している）